



第1回カレッジ・大田原市須賀川でのラズベリー畑の草刈り

平成26年度とちぎ夢大地応援団第1・2回カレッジ活動が6月7日と14日、足利短期大学こども学科の1年生67人（7日34人、14日33人）が参加して行われ、畑の除草やヒガンバナの植付けなどの作業に取り組みました。カレッジ活動は、農作業の実体験をとおして高校生や大学生に農業農村環境の維持の重要性を理解してもらおうのがねらいで、今年で4年目になります。学生たちは汗にまみれながら、ボランティア活動の喜びを語っていました。カレッジ活動の第3回目は秋に行われる予定です。



第2回カレッジ・栃木市大柿でのヒガンバナ球根掘取り・植付け

## 目次

- 2 農業・農村活性化に貢献する「アグリパル塩原会」が経営する道の駅湯の香しおばら
- 3 10年目を迎えたとちぎ夢大地応援団活動
- 4 6次産業化総合化事業計画の認定について
- 5 農業の6次産業化シンポジウム
- 6 関東ブロック4Hクラブ実績発表会を栃木で開催
- 7 とちぎっ子食育出前講座
- 8 平成26年度美しいとちぎのむら写真コンテストの募集  
平成26年度（第23回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクール募集





## 農業・農村活性化に貢献する「アグリパル塩原会」が経営する道の駅湯の香しおばら

平成8年11月に塩原町（現在は那須塩原市）は、「アグリパル塩原」を年間多くの観光客が訪れる塩原温泉の玄関口に、最大産業である観光を視野に置いた農業振興の拠点施設として、農業農村活性化農業構造改善事業を導入し農産物直売所や農村レストラン等を整備してオープンしました。



道の駅湯の香しおばら全景と農産物直売所

翌年、当施設は国道400号線沿いに位置して多くの利用客の利便性を図るため、駐車場を整備し周辺施設を含め、県内3番目の道の駅「湯の香しおばら」として登録されました。

当初、施設管理は町農業公社が担っていましたが、平成21年からは農業者等で構成する「アグリパル塩原

会」が指定管理者として、設立時の地域農業の振興に貢献することや雇用を創出しながら観光資源を十分に活用した経営を行い、一時は総販売額4億円ほどありましたが、現在は3億数千万円になっています。

当会は直売部、菓子加工販売部、レストラン部等の3部制で運営しています。

総販売額の約6割程度を占めている直売部の特徴は、安全・安心はもとより季節感のある店作りで、春には山菜等の品揃えで利用客に喜びをもたらし、夏から秋は町の特産であるみずみずしい塩原大根をメインの商材として安定した提供をするため、生産量の増大や販売期間の拡大を図り、冬季の生鮮野菜として、パイプハウスを整備してほうれん草や小松菜等の葉物野菜を生産するなど、地元産の農産物にこだわった販売に徹して地域農業の振興に寄与しています。



季節感のある農産物直売所

菓子加工販売部の主力は、こちらも季節限定の変わり饅頭、特に、販売が9月から始まり翌年5月で終了する「切り干し大根まんじゅう」はお客さんから大変好評を得ています。

また、農村レストランについても、部会員の栽培物と、地域内農家と契約栽培したそばや小麦を使用するなど、農業の6次産業的な取組を行っています。

今後とも、アグリパル塩原会は道の駅湯の香しおばらの指定管理者として、お客さんに感動される運営はもとより、当施設を活かした地域農業の振興や農村の活性化に貢献して、生産者に喜びと励みが得られるよう日々努めていきます。



変わり饅頭



農村レストランの手打ちそば





# 10年目を迎えたとちぎ夢大地応援団活動

## ことしも県内各地で開催計画

平成17年1月に設立されたとちぎ夢大地応援団は、さまざまな人々との交流や協働活動を通じて、農山村地域の活性化や地域資源を守り、「ふるさと栃木」を次世代に伝えていくことを目的として県内各地で活動을続けており、本年で10年目を迎えます。

今年も県内各地で活動が計画されていますが、鹿沼市中粕尾の和田用水ホタルの里の会、那須烏山市国見の国見棚田保全組合、茂木町河又の虹色の里あじ彩協議会の3地区は、応援団発足時から活動が継続されています。

なかでも、和田用水ホタルの里の会（若林正夫会長）の活動は、ホタル棲息地の水路清掃と

あわせ水路そばの休耕田に小松菜の種をまく作業を毎年応援団員らで行います。その小松菜の畑で春には「菜の花交流会」、ホタルの時季には「ホタル観賞会」を開催し、毎年県内外から多くの人を集めています。

今年の応援団活動は、新しく協働活動を希望する企業と受入れ地区の活動の支援も行う予定です。



那須烏山市国見の昨年の活動のようす



和田用水ホタルの里の小松菜の種まき（平成25年）

### 平成26年夢大地応援団活動日程

（8／8時点）

- ・日光市土呂部地区 9月7日(日)
- ・鹿沼市中粕尾地区 9月28日(日)
- ・那須烏山市大木須地区 10月19日(日)
- ・那須烏山市国見地区 11月8日(土)
- ・茂木町河又地区 11月22日(土)





## 6次産業化総合化事業計画の認定について

公益財団法人栃木県農業振興公社では、本県が有している農産物等の地域資源を最大限に活用し、創意と工夫を生かした6次産業化に取り組む農業者等を支援するため、平成26年度においても引き続き公社内に「栃木6次産業化サポートセンター」を設置しました。

このたび、平成26年5月30日付けで新たに4件の6次産業化総合化事業計画が認定され、その認定証交付式が6月17日にとちぎアグリプラザにおいて行われました。今回の認定により、栃木県での認定件数は合計27件となり、今後とも6次産業化が県内全域に広がっていくことが期待されております。

なお、今回新たに認定された6次産業化総合化事業計画の概要については次のとおりです。



### (株)篠原ファーム（小山市）

自社生産のいちごを活用して、ジェラート・ケーキ・焼き菓子などのスイーツを製造及び販売すること、並びにいちごの直売をすることによって、付加価値の高い農業経営を目指し所得の向上と雇用の拡大を図る。

【写真は代表取締役篠原宏明氏】



### (有)川田農園（益子町）

自社生産の新鮮な多品目季節野菜を活用して、真空や急速冷凍野菜に加工し、飲食店へ販売することによって、付加価値の高い農業経営を目指し収益の改善を図る。

【写真は代表取締役川田修氏】



### (株)かっぺ（矢板市）

自社生産の夏いちごを活用して、アイスクリームやスムージーを開発すること、並びにいちごの移動摘み取り販売をすることによって、収益の改善を図る。

【写真は代表取締役中村勝氏】



### (有)ハーレイ牧場（那須塩原市）

自社生産のこだわりの生乳を活用して、食べやすいスティックチーズを製造及び販売することによって、収益の向上を図る。

【写真は代表取締役月井美好氏】





## 農業の6次産業化シンポジウム



平成26年8月1日に宇都宮市のとちぎ産業創造プラザにおいて、「農業の6次産業化シンポジウム」を栃木県との共催により開催しました。

当日は、事業戦略構築研究所AX代表の高木響正氏による講演や先進的に6次産業化を実践している(有)ハーレイ牧場の月井美好氏、(株)和氣ふぁーむの和氣勝英氏、農事組合法人そばの里まぎの石川修子氏の3名をパネラーに迎え、本県の6次産業化計画づくりアドバイザーであり、(株)ファーマーズ・フォレスト代表取締役社長の松本謙氏をコーディネーターとしたパネルディスカッションを行い、今後の戦略的な農業の実践について討論しました。

会場には農業者をはじめ、商工業者や関係者など約150名の参加者が今後の事業展開に活かそうと熱心に聞き入っておりました。



パネルディスカッション「6次産業化は戦略的農業経営の道しるべ」



講演「戦略的な6次産業化の進め方」

### 【問い合わせ先】

栃木6次産業化サポートセンター  
((公財)栃木県農業振興公社 農政対策部内)

TEL: 028-648-9515

ホームページ

<http://www.tochigi-agri.or.jp/guide/10/10-1.html>



## 関東ブロック4Hクラブ実績発表会を栃木で開催

「農でつながる ～栃木でいちご一会～」をスローガンに関東全域から農業経営・生活改善に取り組んだ成果を交換し合うため、7月9日に宇都宮市の県青年会館（コンセーレ）に約300人の若者たちが集結しました。

意見発表では、発表者がUターン就農者か新規参入者がほとんどで、今までの経験を活かした新たな視点での農業への取り組みを熱く語られました。

また、プロジェクト発表では若者ならではのアイデアや行動力で、地域の農業を動かすような事例紹介がされました。

講演会は、「農家のこせがれネットワーク」代表の宮治勇輔氏から生産から流通販売まで一貫して行うかっこいい儲かる実践事例のお話をいただきました。その後、交流会の夕べも行われ参加者同士の親睦も深まり、最後まで熱い栃木の夜を過ごすことができました。



開会の様子



意見発表：森口 千里（栃木）



プロジェクト発表



成績優秀者の面々



講演会内容：「一次産業を、かっこよくて・感動があって・稼げる3K産業に」



交流会の夕べの様子





# とちぎっ子食育出前講座

農業振公社がやっている「とちぎっ子食育出前講座」ってなんですか!?

子どもたちや、その保護者を対象とした食育講座で、知識や技術を持った「とちぎ食育応援団」が皆様のもとへ出向いて、楽しくていねいに説明をします。

どんなことをやってるのですか？



田植え体験。  
植える時は  
「チョキ」  
の手で。



農作業や調理の実体験をとおして健康な体を作るための楽しいお話を聴いています。



愛情を持って  
育てたから、  
愛情をもって  
摘んでね。

米粉ホット  
ケーキで  
調理体験



さつまいも植え体験。  
苗は斜めに植えましょう。



栄養の話をして、お母さん  
たちへの食育です。



味覚の話。みんなの「べろ」  
もこうなっているんだよ。



とちぎアグリプラザ

検索





## 平成26年度美しいとちぎのむら写真コンテストの募集

農村地域における農業生産活動の姿や美しい農村の四季折々の風景などを、将来を担う中・高生に撮影いただき、広く農業・農村への理解と関心を深める契機とする。

1. 応募資格 県内の中学校・高校に在学する生徒
2. 応募テーマ 躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう  
部門1 農業に生き生きと携わる人々の姿  
部門2 農地、水、農村環境を守る活動
3. 応募規格 四つ切り又はA4版カラーもしくは白黒プリント  
(デジタル合成処理は不可)
4. 応募上の注意 作品は県内でフィルムカメラ、デジタルカメラで撮影した未発表の写真  
応募点数は5点以内
5. 応募方法 応募写真の裏に応募票を貼付し、11月28日までの期間に農業振興公社に送付下さい。
6. 表彰 最優秀賞 各部門 1点 (栃木県知事賞)  
優秀賞 各部門 2点 (栃木県農政部長賞)  
入選 各部門10点以内
7. 入賞作品の発表 入賞作品は公社ホームページで紹介し、平成27年2月16日～2月27日に栃木県庁15階展望ロビーで展示をします。

### 参考 25年度最優秀作品



真岡市立長沼中学校3年生 阿部貴美さん



真岡市立長沼中学校3年生 鈴木理紗さん

## 平成26年度(第23回)ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集

活力ある農業の姿や農村の情景に親しみ、これらを描くことによって農業・農村のすばらしさを知るとともに、優秀作品を展示して広く県民の方々に農業・農村の理解と関心を深めていただくために開催します。

1. 応募資格 県内の小学校で学ぶ児童
2. 募集テーマ 私が描く農業・農村  
作業の風景、農家の人々の暮らし、市場や農産物直売所 情景、体験農業の様子など
3. 作品の規格 B3の画用紙(1～4年生はB4でも可)
4. 応募方法 小学校でとりまとめ、9月10日までに市町の農政担当課に送付して下さい。
5. 表彰 低学年(1～2年生)、中学年(3～4年生)、高学年(5～6年生)の区分毎に、最優秀賞(栃木県知事賞)各1点、優秀賞(栃木県教育長賞・栃木県農政部長賞)各2点、優良賞(ふるさととちぎ21活性化塾長賞)各10点
6. 入賞作品の展示 10月25～26日に開催される「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2014会場(栃木県庁15階ロビー)」で展示するほか、平成27年2月16～27日まで栃木県庁15階ロビーで再展示します。  
また、最優秀賞・優秀賞作品は、とちぎアグリプラザ3階ロビーで平成27年10月まで常設展示します。

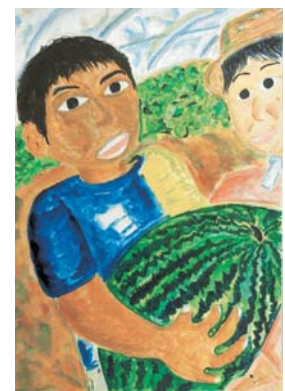
### 参考 25年度最優秀賞作品



小山市立大谷東小2年 野村光孝さん  
「稲刈り」



野木町立南赤塚小5年 平野恵里香さん  
「トラクターに乗って立ち話!？」



那須烏山市立烏山小3年 青木佳祐さん  
「近所のおばさんと」

### とちぎ発 元気農業 ふるさととちぎ21活性化塾だより58号

発行日 平成26年8月11日  
 編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾  
 所在地 〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-13  
 (公財)栃木県農業振興公社内  
 TEL 028(648)9511(代) FAX 028(648)9517  
 URL : http://www.tochigi-agri.or.jp  
 Eメール : info@tochigi-agri.or.jp

